

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。
【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

出雲国庁跡

「みんなで残したい松江の景観400選集」から
景観審議会が特にお薦めする景観

No. 282

「奈良、平安時代に出雲国庁があった場所です。はるかなる歴史に思いをはせながら、歩いてみてはいかがですか」と推薦いただきました。

大草町にある出雲国府跡史跡公園は、奈良・平安時代の出雲国の政治的中心地で、今という県庁や市役所などが集まった官庁街がありました。昭和43年から3年がかりの発掘調査によって役所の建物跡や関連の遺物が出土し、国指定史跡となりました。その後、史跡公園として整備され地域の

憩いの場となっています。国庁の大規模な建物跡は、区画された溝や柱の位置を表す丸太によって表現されており、出雲国の政治の中心であったことをしのぶことができます。

また、後ろにそびえ立つ茶臼山（標高171m）は、神の住む山「かななび」として古代の人々の信仰を集め、奈良時代の書物「出雲国風土記」には神名槌野として登場しています。古代出雲の歴史にロマンを感じながら、皆さんも足を運んでみませんか。